

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月4日現在

機関番号：35308

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520779

研究課題名（和文）吉岡銅山資料の展示と公開に関わる史料の記録と遺構の調査

研究課題名（英文）A survey on the sites of the Yoshioka Copper Mine and digital archive of historical materials for public exhibition.

研究代表者

小西 伸彦（KONISHI NOBUHIKO）

吉備国際大学・社会学部・准教授

研究者番号：00425141

研究成果の概要（和文）：岡山県高梁市に存在した吉岡銅山の資料蒐集とデータベース作成を行った。調査上祭重要課題とした吹屋の銅山請負者・大塚家の史料が東京で保存されていることが判明。2011年に借用交渉につくことができた。古写真や施設配置図、坑道図、専用鉄道敷設申請時の敷設図面等のデジタル化は終了。高梁市歴史美術館の収藏品台帳に保存する作業を進めている。これら資料は今後整備される銅山資料室の展示物として活用してゆく。

研究成果の概要（英文）：I have been looking for and collecting historical materials about the Yoshioka Copper Mine in Takahashi City, Okayama Prefecture and archiving the data digital over the past three years. During three years' research, I found that the document written by Mr. Otsuka, the manager of the Yoshioka Copper Mine in Fukiya, the single most important historical one, had been preserved in Tokyo. In 2011, I succeeded with sitting at the negotiation table with the present manager of the Otsuka family on archiving the historical materials. Since March 2012, the following materials have been archived ; old photographs of the mine, plans of facilities, the drawings of galleries and shafts of mine, drawings of the construction plan of the railway. Preserving the above materials into the database has been going on at Takahashi Historical Museum. The photographs, plans and other materials are to be used as the exhibits for the museum of the Yoshioka Copper Mine.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	500,000	15,000	650,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、考古学

キーワード：産業考古学、近代化遺産、近代化産業遺産、鉱山遺跡

1. 研究開始当初の背景

(1) 1990(平成2)年度に始まった近代化遺産

総合調査、1996(平成8)年の文化財保護法改正に伴う登録有形文化財制度の導入、

2007(平成 19)年・2008(平成 20)年度の経済産業省による近代化産業遺産の認定、2007年の「富岡製糸場と絹産業遺産群」と「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」、2009(平成 21)年の「九州・山口の近代化産業遺産群」、2010(平成 22)年の「佐渡鉱山の遺産群」が世界遺産暫定一覧表に記載されるなど、近代の産業遺産への関心が高まりを見せた。

(2)ところが、岡山県高梁市の吉岡銅山は、1996年から1998(平成 10)年に文化庁と都道府県が行った調査記録「近代遺跡調査報告書-鉱山-」に記載がなく、2003(平成 15)年と2004(16)年に文化庁と岡山県が行った調査記録「岡山県の近代化遺産-近代化遺産総合調査報告書-」にも記述がない。2誌を見ると、最初から調査対象とはなっていなかったように見受けられる。もっとも、旧川上郡成羽町と現在の高梁市も、吉岡銅山の調査・研究には関心を示していなかったようで、1996年頃リゾート開発候補地としての調査が行われた以外に調査された記録はない。

(3)岡山県及び高梁市などの図書館等に所蔵される吉岡銅山に関する資料は極めて少ない。『岡山県史』、『成羽町史』などに記述があり、『成羽町史』資料編には複数の文書が記録されているが、特に一次資料や史料が乏しい。県史や町史編纂後に、史資料が保管されるか、その所在を明示した記録が残されたようでもない。特に近世、住友が稼業に参加する以前と、住友・三菱ふたつの中央資本参入の端境期に銅山稼業を請け負った地元資本家・大塚家が残した記録(大塚家文書)が残されていないのは遺憾である。

(4)大塚家文書は、市町村合併前に編纂された『成羽町史』が発行された後行方不明となり、その後所在が確認された後も東京で保管され続けた。岡山県記録資料館の努力でマイクロフィルムでの撮影が行われたが、完全な記録ではないという。また、地元においては、そのマイクロフィルムも閲覧不可能であるなど、研究者に資料公開がなされてこなかった。

(5)高梁市及び岡山県には、住友、三菱ふたつの中央資本の記録も存在しない。岡山県立図書館に『三菱社誌』はあるが『泉屋叢考』は完備されていない。もっとも、高梁市内の図書館には共に蔵書がない。銅山が稼業した成羽町坂本出身で倉敷市在住の個人研究家が地道に資料を蒐集し、自費出版した銅山記録があるのみである。

(6)銅山の副産物である緑礬を原料とした弁柄で発展・建設された吹屋の町並は、岡山県

では倉敷よりも早く伝建地区に指定され、観光地として再開発された。2011(平成 23)年度の観光客入込数は5万5千人であった。しかし、鉱山町として伝建地区に指定されながら、笹畝坑道以外の銅山遺構は長年放置され、整備もされてこなかった。リゾート開発開発が計画された1996年頃一度調査されたが、それ以降、学術的調査を含め、調査らしきものは行われていない。

(7)わが国最古の現役木造校舎を持つ小学校として名を馳せた高梁市立吹屋小学校は、三菱吉岡銅山本部跡に建てられた学校である。その設計には銅山技師と岡山県の建築技手があつたものの、児童数の減少に伴って閉校の危機を迎えていた。同時に、吹屋ふるさと村の観光資源活用が再考された時、銅山資料の展示と小学校の跡地利用が課題となった。

(8)以上の背景から、まず、吉岡銅山の資料を蒐集し、研究者に情報公開することが必要であると考えた。次に、銅山資料のデジタル化とデータベース化が必要であると考えた。三つ目に、過年取り組み開発した高梁市歴史美術館の収蔵作品、高梁市立図書館の植物標本、高梁市で明治期に創業した芳賀芙蓉軒が残した写真資料用のデータベースに吉岡銅山資料を加えることを検討した。四つ目に、デジタル化した銅山資料が、将来的に完備される銅山資料館で公開されることへの利便性を考慮した。

(9)そこで、地元資本家・大塚家の文書の里帰りを高梁市教育委員会に持ちかけ、大塚家との交渉に入った。高梁市教育委員会は、大塚家文書を市の重要文化財に位置づけ、デジタル化と読み下しを行うなど、将来的な活用に向けての検討に入った。

2. 研究の目的

(1)吉岡銅山に関する資料の所在を確認し、蒐集する。

(2)可能なかぎり高梁市で資料を保管する。

(3)地元で所蔵できない資料は、その所在を明記する。

(4)借用可能な資料は、デジタルデータとして保管する。

(5)高梁市内で保管されている銅山資料の悉皆調査を行うと同時に、資料のデジタル化を進める。

(6)デジタル化した資料は、高梁市歴史美術

館が管理する作品台帳と一元化して、データベースとして保存する。

(7) データベースは学芸員や職員が追加、修正できる操作の簡単なものに構築する。かつ、高精細画像を同時に保管し、操作できるものとする。

(8) 研究者に資料を公開する。特に大塚家文書の閲覧できるようにする。

(9) 将来的には、デジタル化した資料を岡山県内の図書館や資料館でも閲覧可能にする。

(10) 銅山遺構の顕彰を行う。特に、施設や設備の配置検証、遺構の確認を行う。

(11) 第二次大戦後の吉岡鑛業時代に働いていた方々の記憶を記録する。

(12) 銅山に関する古写真や図面、その他関係資料を保有する人を探し、資料蒐集への協力を仰ぐ。

(13) 銅山遺構の現状を撮影し記録する

(14) 以上の行動を通じて、銅山の歴史の整理を行う。

3. 研究の方法

(1) 高梁市教育委員会に協力要請し、高梁市が保管する銅山資料を閲覧する。

(2) 高梁市が所蔵する資料の中から重要であると判断されるものをデータベース化する。

(3) 個人が所蔵する古写真や坑道図、銅山施設配置図等をデータベース化する。

(4) 財閥系の資料のデジタル化は、高梁市教育委員会を通じて所蔵企業に協力を要請する。

(5) 他府県に持ち出されたと考えられる資料は、該当市町村の教育委員会に閲覧等の許諾を申請し、デジタル化を図る。

(6) 吉岡鑛業の元従業員の人々に協力を仰ぎ、遺構の確認と設備や施設の検証と所在の確認を行う。

(7) 現状を撮影し、古写真との比較を行う。

(8) データベースは、高梁市歴史美術館と高梁市立図書館で作成した所蔵品台帳にリンクさせ、高梁市が所蔵する美術品、植物標本、古写真データと同じ方法で閲覧でき、かつ学

芸員や職員が管理できる体制を構築する。

(9) データベースソフトは市販の File Maker を使い、運用コストのかからないものとする。

4. 研究成果

(1) 資料蒐集の中で、中世の銅山稼業を請け負った大塚家の文書の所在が確認でき、高梁市への里帰り交渉に入ることができた。

(2) 大塚家の文書の一般公開が可能となれば、吉岡銅山の創業や名称変遷に関する調査に拍車がかかることになる。

(3) 明治・大正期の銅山古写真の所在が確認でき、データベース化に入ることができた。

(4) 銅山専用軌道の敷設申請に使用した図面や坑道図、銅山施設の配置図が入手できた。

(5) 昭和期に撤退した三菱マテリアルが所蔵した資料の移転場所が判明し、該当市の教育委員会に所在確認と閲覧、複写の依頼を行なうことができた。また、以降の資料借用の緒を見出すことができた。

(6) 石見銀山や佐渡金山と吉岡銅山との関係を炙り出すことができ、石見銀山の資料の中にも吉岡銅山に関する記述や人的背景のあることが判明した。

(7) 高梁市商工観光課や高梁商工会議所、備北商工会等が銅山を観光資源として捉えるようになり、銅山に関する講演会や見学会が開かれるようになった。このことから市民をはじめ広域の人々が銅山に関心を持つようになった。

(8) 2012(平成 24)年 3 月で廃校になった高梁市立吹屋小学校の保存再利用計画の中に、銅山資料室の設置が盛り込まれた。

(9) 一時期所在不明となっていた大塚家文書を高梁市の重要文化財に位置づける道筋が立った。

(10) 大塚家と共同での、大塚家文書の保存、活用の話し合いが進んだ。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

① 小西伸彦、吉岡銅山の歴史と遺構の概要
(1)、産業考古学会誌、査読有、第 144 号、2012、2-10

②小西伸彦、吉岡銅山の歴史と遺構の概要

(2)、産業考古学会誌、査読有、第 145 号、
2012

〔学会発表〕(計 1 件)

小西伸彦、吉岡銅山の歴史と遺構の概要、産
業考古学会、2012 年 10 月 7 日、新居浜ウイ
メンズプラザ

〔その他〕

高梁市民向け発表、小西伸彦、吹屋と銅山、
2011 年 9 月 21 日、高梁市文化交流館

高梁市市民向け銅山遺構の案内、2009 年から
2011 年にかけて 7 回

レジュメ印刷、小西伸彦、吉岡銅山の概要、
2012、24 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小西 伸彦 (KONISHI NOBUHIKO)
吉備国際大学・社会学部・准教授
研究者番号：00425141

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：